

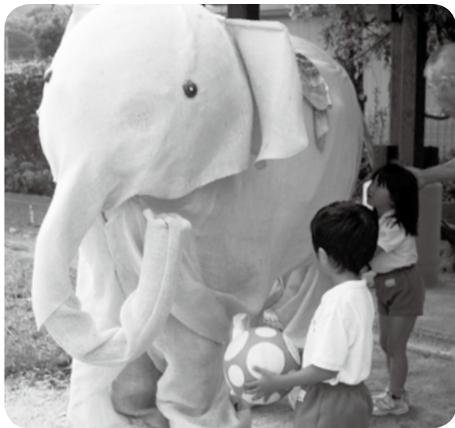


■地域コミュニティの活動を紹介します
 筑紫野市では、共助社会づくりに向けて、地域コミュニティによるまちづくりを推進しています。
 今回は、山家地区で制作された「はくぞう君」について紹介します。

「はくぞう君」とは？

江戸時代の享保13年(1728年)に、将軍・徳川吉宗の命令により、ベトナムから象が運ばれ、長崎から江戸までをおよそ80日間かけて旅をしました。

長い旅の途中、長崎街道筑前六宿の一つであった山家にも2日間滞在したと言われています。



はくぞう君と一緒に歩いておもしろかった！



地域で活用されます。

今後、「はくぞう君」は山家宿まつりを中心に幼稚園や園PTAなど多くの皆さんの協力を得ながら、ついに完成しました。



山家幼稚園
 石丸 明彦 園長

「はくぞう君」は、子どもたちの楽しい思い出づくりとともに、ふるさと山家を誇りに思い、たくましい子どもに育てて欲しいと願い制作しました。

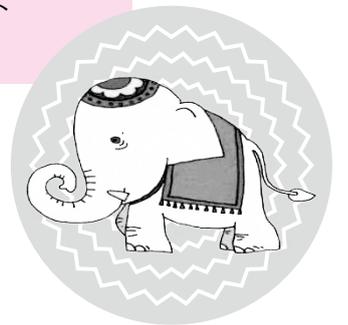
制作にあたり、山家コミュニティ運営協議会・PTAなど多くの皆さんに支援をいただき、深く感謝しています。

●制作に携わったPTAの声

子どもたちが驚き、喜ぶ顔が見たくて、役員で何度も集まり知恵を出し合って縫い合わせました。

私たちにも大きな思い出ができました。

幼稚園の園児による「はくぞう君」行列が行われました。
 園児20人が衣装に身を包み「はくぞう君」と一緒に山家8区公園前の約150メートルを練り歩きました。



山家宿まつりでお披露目しました

11月11日(日)に山家

8区上町(かんまち)周辺で開催された第12回山家宿まつりで、山家

山家 「はくぞう君」が完成しました！